

トロっと甘い！今年も「こまきゴールド」が大人気

尾張農林水産事務所

昨年に出荷が開始された新しいモモ「こまきゴールド」をご存じですか。

その名のとおり、小牧市で生産されている、6月中下旬に収穫できる早生品種としては珍しい大玉の黄桃です。2012年に小牧市のモモ生産者が白肉系品種「みさか白鳳」から枝変わりを発見し、2022年に新品種として登録しました。

モモ生産者の高齢化や後継者不足が進む中、産地活性化の起爆剤として期待が高い「こまきゴールド」。そのブランド化への取組を紹介します。

※「枝変わり」：ある枝だけが突然変異し、異なる特徴を持つようになる現象。例：色の異なる果実が着く

1 生産拡大でブランド強化

「こまきゴールド」で産地を盛り上げるため、2021年に尾張中央農協が中心となり、「こまきゴールド生産推進協議会」を設立しました。毎年生産量が増え、現在は29名が約150本の「こまきゴールド」を栽培しています。

2 より高い品質を目指して

産地では複数の栽培試験を実施し、高品質な「こまきゴールド」を安定して生産するための努力を重ね、栽培マニュアルとしてまとめています。

マニュアルには、栽培適地の説明、苗木の植え付け方法や果実にかける袋の種類が細やかに記載され、黄色に赤みがかった鮮やかな果皮色と甘い果実となるためのこだわりが詰まっています。

3 今シーズンのさらなる進化

2025年3月に選果機が導入され、これまで生産者が行っていた等階級の選別を、選果機でより正確に行えるようになりました。これにより生産者の負担が大幅に軽減されるとともに、品質が安定しました。さらに、秀品の中でも特に糖度の高いモモを「こまきゴールド極（きわみ）」として販売しました。

今年は去年の3倍にあたる約8000個が出荷され、尾張中央農協の産直施設全4店舗で販売されました。産地のPR活動が功を奏し、行列ができる大盛況でした。進化を続ける「こまきゴールド」、来年もぜひ、ご注目ください。



「こまきゴールド」



栽培試験の様子
(最適な摘果の検討)



「こまきゴールド極」